



## イギリス

## イギリスのスマートメーター事情

- Which? ホームページ <https://www.which.co.uk/news/2019/03/half-of-smart-meters-stop-working-when-you-switch-energy-firm/>
- BEIS ビジネス・エネルギー・産業戦略省ホームページ <https://www.gov.uk/government/consultations/enrolment-of-secure-smets1-meters-in-the-data-communications-company-dcc> ほか

イギリス政府は2008年、全家庭と小規模事業者に2020年までにスマートメーターを導入する政府案を発表し、そして2016年、期日を2019年までとして正式導入を開始した。政府は、スマートメーターの導入のメリットとして、不正確な料金請求の是正や各家庭における省エネや光熱費節約、さらには高齢者の見守りも可能などとしている。

問題は、①総数約5300万台に上る設置作業が進んでいないこと（2018年9月現在1365万台）、②設置されたメーターの大部分が初期の第1世代のメーターであることだ。第2世代のメーターは無線ネットワークにつながることができるため、供給会社を切り替えても正常に作動するが、第1世代のスマートメーターは互換性のない供給会社に契約を切り替えると使用できなくなることがある。

実際、スマートメーターを設置後に供給会社を切り替えた消費者にWhich?がアンケート調査を行ったところ、問題なく継続使用できていたのは約4割であったという。スマートメーター使用者の17%しか供給会社を切り替えていないことから、今後、切り替えによる作動不全は増加すると予想される。Which?は、消費者がより安い料金や良いサービスの提供を求めて供給会社を切り替えるのは当然で、政府の保証が必要であるとしている。

この事態を受け、BEIS（ビジネス・エネルギー産業戦略省）は2019年3月、第1世代のメーターのセキュリティ保護や作動改善等について検討する専門家協議会を開催し、2019年4月には対策案を出すこととしている。



## アメリカ

## ペットの抗生剤使用で人間に影響が

- CDC 疾病予防管理センターホームページ <https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/67/wr/mm6737a3.htm>
- CR コンシューマーレポートホームページ <https://www.consumerreports.org/antibiotics/how-antibiotics-for-pets-can-make-you-sick/> ほか

アメリカでは、毎年約130万人が鶏肉など生肉の不適切な取り扱いで、カンピロバクター菌による食中毒を発症する。ところが、最近のCDC（疾病予防管理センター）の統計によると、2016～2018年の間、118人にペットの犬を感染源とした多剤耐性カンピロバクター菌による集団感染が発生したという。罹患者の多くがペットショップで子犬と接触していたことから保健当局が20カ所のペットショップを立ち入り検査したところ、約150頭の子犬のほとんどが予防や治療などで複数の抗生剤を投与されていたことが明らかになった。ペットから人への感染はこれまでもあったが、ペットの犬を感染源とした多剤耐性菌による集団感染は初めてである。

不要の抗生剤使用は不要の副作用や耐性菌を生み、さらに複数の抗生剤使用は多剤耐性菌の蔓延をもたらす。これは人に限らず、近年では家畜肥育の

現場でも問題となっていたが、ペット産業においても影響が無視できない現状が明らかになった。

CDCおよび各州公衆衛生当局は、カンピロバクター感染予防のための手洗いの徹底や手袋の着用などケージ清掃時の適切な汚染防止対策を紹介する啓発教材等をブリーダー、ペットショップなどに提供している。また、CDCのウェブサイトでは集団感染発生時の対策情報として、臨床医および獣医師に対し、適切に抗生剤治療を行うよう検便および抗菌薬感受性試験の実施を推奨している。

CR（コンシューマーレポート）は、ペットから人への感染リスクは高くはないものの、特に抵抗力や免疫力の低い家族が居る場合●手洗い、寝床洗浄その他の衛生管理の徹底●なめる・かむなど濃密な接触を避ける（特に猫咬傷は危険）●ペットの皮膚炎等に安易に抗生剤を使用しないなどを助言している。



## ドイツ

### 生徒向けワークショップで菜食生活の難しさを体感

- バイエルン消費者センター ホームページ <https://www.verbraucherzentrale-bayern.de/bildung-by/angebote-fuer-schule-und-kinderhort/workshop-alles-veggie>
- バーデン=ヴュルテンベルク消費者センター ホームページ <https://www.verbraucherzentrale-bawue.de/wissen/lebensmittel/gesund-ernaehren/alles-veggie-13404>
- 連邦食糧・農業省ホームページ [https://www.bmel.de/DE/Ernaehrung/\\_Texte/Ernaehrungsreport2019.html;jsessionid=271818263F536CABCBE220A9B925032.2\\_cid385](https://www.bmel.de/DE/Ernaehrung/_Texte/Ernaehrungsreport2019.html;jsessionid=271818263F536CABCBE220A9B925032.2_cid385)

連邦食糧・農業省が実施したアンケート調査（2018年）によると、肉・ソーセージ類を毎日食べると回答した人は28%と、前年の34%から減少していた。ベジタリアン（菜食主義者）は6%、ビーガン（完全菜食主義者）\*は1%にとどまったが、若者の菜食への関心は高く、14~29歳の11%がベジタリアンと回答している。しかし、正しい知識がないまま、自己流の菜食生活を続けると、成長期に必要な栄養素が不足するおそれがある。

そこで、若い世代が菜食について正しく学べるように、各地消費者センターでは連邦食糧・農業省の補助を受け、生徒対象の無料ワークショップを開催している。参加は学級単位で、消費者センター相談員が進行役を務める。パズル等を使ったグループ

ワークで、菜食主義者に不足しがちな栄養素、代替食品、表示等について学ぶ。ある学級では、ビーガンの友人をパーティに招待するという設定で、買い物リストを準備した。ビーガン向けの食品に見えても、意外な動物性成分が含まれており、生徒たちが驚く場面もあったという。例えば、ビターチョコレートには澄ましバターが、アップルジュースにはゼラチンが含まれていたことから、原材料表示確認の重要性に気づいたとのことである。

さらに、本物のソーセージと、肉を使わないソーセージ風食品を試食し、味や食感の違いを体験するコーナーもある。各自の体験・考察はノートにまとめられ、生徒たちが自身の食生活を決定する能力を養うことをめざしている。

\* ウェブ版「国民生活」2016年3月号「海外ニュース」参照 [http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201603\\_09.pdf](http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201603_09.pdf)



## オーストリア

### 過大包装、誇大表示の食品に消費者の怒りが爆発

- VKI「消費者」2019年2月号 <https://www.konsument.at/cs/Satellite?pagename=Konsument/MagazinArtikel/Detail&cid=318910361130>

食品の包みを開けると、内容物があまりにも少なく驚いた経験はないだろうか。VKI（オーストリア消費者情報協会）が連邦労働・社会・保健・消費者保護省の補助により運営する「食品チェック」メール箱には、食品の包装・表示・広告に関する苦情が次々と寄せられている。例えば、「ポテトチップスの袋を開けたところ、内容物は4分の1で、残りは空気だった」「マンゴーの写真付きトロピカルジュースの実態はアップルジュースだった」「商品名に『ぶどう』『ラズベリー』と付いたフルーツバーの主原料はバナナフレークだった」など、枚挙にいとまがない。

このような苦情がある消費者は、専用フォームに概要を入力し、現物写真があれば一緒に送る。追加情報聞き取りのため、氏名とメールアドレスは必須である。同協会は全メールに目を通したうえで、同

じ商品を購入し、問題点を詳細に調べる。消費者の主張に一理あると判断すると、事業者宛てに質問状を送り、1週間以内に回答がない場合は再質問する。それでも無回答の場合は、事業者の反論文がないまま、商品名や問題点を公表するしくみで、訴訟を起こすことも珍しくない。

2018年に公表された商品では、イラストと文字で菜種油とバターの使用を強調するマーガリンに消費者の批判が特に集中した。菜種油とバターの割合は原材料表示欄に記載されているが、パーム油の割合は包装のどこにも見当たらない。ところが、事業者に照会したところ、パーム油の割合が最も高いことが分かったという。都合の悪い情報を意図的に目立たせなくする手法だとして、消費者は不満を表明している。